## 第３節　景観認知の特性

### （１）調査の方法

蘭島を日帰りで訪れた観光客を対象に、「カリグラフ」を用いた景観認知の調査を行った。調査協力者に蘭島の景観がもっとも美しく見える場所を選んでもらい、模式的な絵と記号（カリグラフ）を描いてもらうことで、景観のまとまりをどのように把握しているか、何を認識しているかを調査した。なお、この方法は、上空から見下ろした地図として認知を調べる「イメージマップ法」を、奥行きのあるパースペクティブな「景観視」へ応用したものである。

写真 5-24　景観認知調査（和歌山大学オリエンテーション）

調査は 2011 年 4 月 16 日（土）に 53 名の大学一年生に対して行った。同時期は、田植え前の稲株景観期で農作業は行われていなかった。当日の天候は曇天で霞がかっていた。蘭島での滞在時間は約二時間で、三田展望所にて集合した後、調査票に記入してもらった。視点場は徒歩で到達出来る範囲で自由に選定できる条件とした。

### （２）景観のまとまりと視点場

模式的な絵と記号から、視点場の位置を特定する。視点場については、すべてのカリグラフで、三田展望所付近から蘭島を見下ろす風景が描かれていた。観光客が見る蘭島の風景は極めて固定された視点場を持つことがわかる。描かれた範囲は、蘭島を中心として、左右は小峠から三田バイパス橋梁部まで、上下は有田川から奥山の山頂付近までを描くもの（75％）が多い。三田展望台から一望する景観を広く認知していることがわかる。

次に、景観のまとまりをどのように捉えているかに注目する。蘭島全体を画角に納めているものは 100％であった。部分のみを描いているものはなく、半島状の地形として蘭島が強く認識されている。また、有田川を含んでいるものが同じく 100％である。蘭島全体と、それをとりまく有田川が全員に認識されている。さらに、後背の山地までを入れたものが 96％（山頂まで描

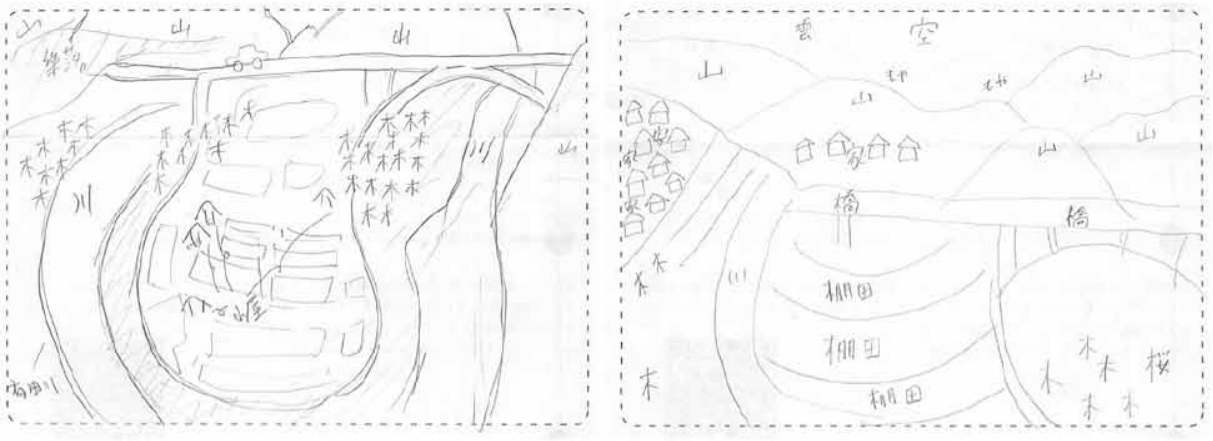

図 5-13　カリグラフの一例

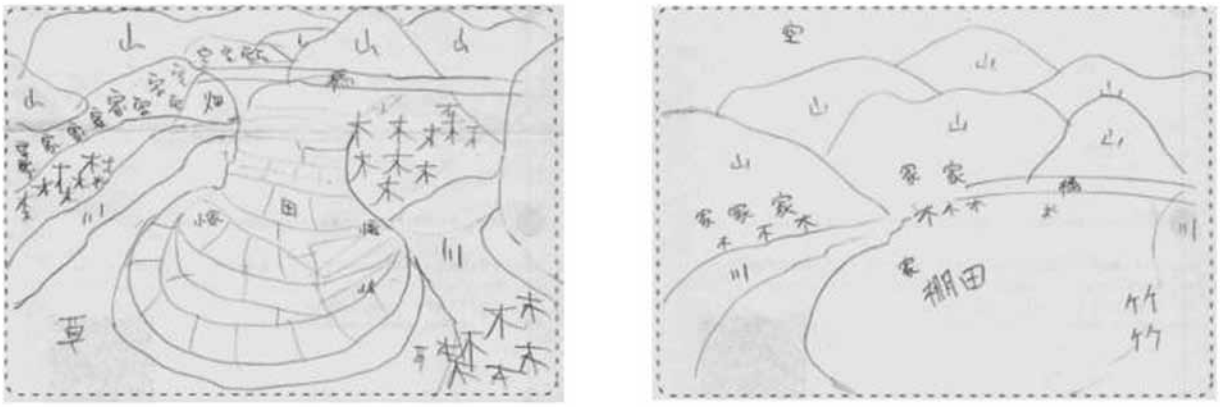


図 5-14　カリグラフの一例

くものは 75%）、三田バイパスの橋梁部をいれるものが 87% であり、棚田景観には背後の山の存在が表裏一体の関係として成立していることを示している。次に民家を入れているものが 79% である。河川、山地、橋梁、民家がほとんどのカリグラフに描かれており、強く認識されていることがわかる。そのほとんどは、棚田、山地に加え、民家や道路を描いており、棚田の背景には、棚田以外の農村風景が描かれているがわかる。

画角に小峠集落が含まれているものは、79%（42）で、民家を認識しているもののすべてに小峠が含まれている。西原集落を認識しているものは 45%（24）と半分程度にとどまっており、本来蘭島との結びつきの強いはずの西原集落の認知度は低い。三田集落は画角に入らないこともあり、中景、遠景を捉えたカリグラフでは認知されていない。

### （3）認知されている要素

カリグラフに書き込まれた単語には、環境気象（空、もや、雲）、地形（河川、川、ダム、山）、樹木（樹木、木、枯れ木、針葉樹、桜、竹、草、タンポポ、チューリップ、野原）、土木インフラ（橋、塀、道、堰堤）、建造物（小屋、ビニールハウス、民家、家、町、集落）、農地（棚田、田、畑）があった。他に線画として車両、人、農機具（ナルなど）などが見られた。

**【 気象（霧・もや）の認知 】**

「もや」を記したのは 15%（８）にのぼった。調査当日の天候はもやのかかった曇天であり、目立ったもやや雲海は発生していなかったが、後背の気象には一定の認知度があることがわかる。

**【 農地、河川、山林、道路の認知 】**

棚田や田は 100% 認知がされ、画角の中央に位置づけられている。棚田の周囲を巡る有田川の認知も 100% である。山は 96%（51）であるが、画角に入る場合は 100% 山が認知されており、地形の認知はほぼ 100% と言える。また、樹木を認知しているのは 79%（42）であった。

また、三田バイパスの橋梁は 87%（46）と高く、大きな景観要素となっており、認知度は高い。その中でも橋梁下部のアーチを描いたものが 57%（30）あり、橋梁のアーチ部分は特に形まで詳しく認知していることがわかる。また、水力発電所の堰堤を描いたものは８%（４）で、非常に認知度が低い。堰堤は画角には入っているものの、認知されず無視されているのが特徴的である。どちらも人工物でありながら、堰堤は周囲と同化しており、橋梁アーチは際立った色彩をしているのがその理由だと推察される。なお、上湯を含め、用水路を描いたものは 0% であった。用水路は極めて重要な景観要素であるが、目立たないために認知はされておらず、観光客には「見えない」ことがわかる。

**【 建造物の認知 】**

群としての民家の認知は 79％（42）である。有田川や三田バイパスの橋梁と並んで認知度が高い。群として民家が描かれているが、個別の建物として強く認識されている建物は、カリグラフからは見つからない。多くは住宅と思われる勾配屋根（三角屋根）の建物を描いており、ランドマークとして特筆する建物が認知されてはいない。また小峠集落には陸屋根の非住居建造物（事務所など）があるが、それらが特別に認識されているわけでもない。民家は、家々の集まりとして集団で認識されていることがわかる。

建造物が単体で認識されているものとして、蘭島の中にある農作業小屋（牛小屋）とビニールハウスが挙げられる。農作業小屋の認知度は 43％（23）、ビニールハウスは 21％（11）と、認知はされているものの割合は低い。また、小屋の軒数は７軒であるが、２・３軒程度しか認識されていない。特に東側の元牛小屋は、２軒の小屋が並んでいるために認知度が高いが、他の小屋は認知されていない。小屋は視界の中心部分にあるものの、目立つ存在とは言えない。なお、農作業小屋であることは認識しているが、元牛小屋であることを理解しているものはいない。また、蘭島には２軒の民家が建っているが、これを認識しているものもいなかった。三田展望所から見た場合、この２軒の民家は樹木の影に隠れて視認出来ないことが大きな要因であると考えられる。

写真 5-25　景観認知調査（田植え体験）

### （４）景観の調和と違和

**【 調査の概要 】**

棚田になじんでいる景観要素（心に残ったもの）と、なじんでいない景観要素を言葉であげてもらい、良好な景観と捉えているものは何であるか、阻害するものが何であるかを調査した。調査対象者は、前述の大学生の調査（2011 年 4 月 16 日、稲株景観期、53 名）に加え、田植え体験イベントの参加者（2011 年 5 月 2 日、水盤景観期、23 名）、棚田ウォークイベント「棚田ウォーク in 蘭島」の参加者（2011 年 10 月 2 日、稲刈りとハゼ掛けの景観期、28 名）に対して行った。この３回の調査はそれぞれ参加者の属性が異なる。大学生は単身者の若者でリピーターはいなかった。田植え体験は 30 歳代から 40 歳代で占められ、家族で参加しており７割が大阪府からの参加で、半数がリピーターであった。一方、棚田ウォークは 60 歳代が中心で８割が和歌山県内の参加であり、９割がリピーターである。また、田植え体験者は三田展望所ではなく、蘭島が主な視点場となっている点も特徴である。

分析方法は、挙げられた単語をカテゴリーに分けその回数を数えることで行った。カテゴリーは自然（動物・植物・地形・環境）、人工物（建築物・土木インフラ・その他）、農業（農業設備・農作業風景）の３分類、９項目に分類し、集計した。３調査によってそれぞれ調査協力者の属性が異なりことから、３調査をそれぞれ別途集計し、その違いから考察を行った。

なお、アンケート票は同一のものではなく、質問文に違いがある。学生に対しては、「棚田景観になじんでいるものを 20 個以上」挙げてもらっている。一方、田植え参加者、棚ウォーク参加者に対しては、「心に残ったもの」を数量に関係なく挙げてもらっている。「棚田景観になじん

でいないもの」については、同様の質問文としている。

**【なじんでいるもの】**

アンケートより、52個の言葉を抽出した。抽出した言葉は、計23項目のカテゴリーに分類することができた（表5-2）。その傾向として、自然、地形、農業に関するカテゴリーが多くあげられる。自然に関するカテゴリーは、「植物・樹木」（５個）、「生物・鳥」（７個）、「気象」（２個）、「日・光」（２個）「森・林」（１個）、「雲・空」（２個）、「自然」（２個）、「水系」（２個）の８項目（20個）であった。地形に関するカテゴリーが、「土地」（２個）、「崖」（２個）、「山」（３個）の３項目（７個）、農業に関するカテゴリーは「農業」（７個）、農作物（１個）、２項目（８個）であった。

３調査を合計すると、棚田になじむものは、自然（64%）、農業（23%）、人工物（13%）の比率となった。自然の要素、特に動植物や地形が大きな割合を占めている。カリグラフとして分析した時には、動物昆虫などの微細なものは描かれていなかったが、重要な要素になっていると言える。視覚的な景観としてではなく、気配として動植物の存在を感じていることが伺える。自然的要素に次いで農業設備に対する評価が高い。ビニールハウスや軽トラなど人工物でかつ近代化したものも多いものの、農的な景観として好評価を受けている。一方、民家や寺社仏閣などの伝統的建築物への評価は一定数あるもののそれほど多くはない。

**【なじんでいないもの】**

３調査ともに、人工物に対して特に「なじんでいない」と評価している。自然的な要素はほとんどあげられていない。植物では、チューリップや桜が景観になじんでいないとする評価があった。外来種であるチューリップには特に厳しい評価であった。桜に関しては、「なじむ」としてあげる人も多く、受けとり方に個人差がある。

**表 5-2　学生が棚田景観になじむと思ったもの**

| カテゴリー | 言葉　（　）内は頻出回数 |
|---|---|
| ●植物・樹木(91) | 桜(31)　竹(25)　木(18)　ススキ(9)　菜の花(8) |
| ●生物(105) | 鳥(27)　蝶(27)　虫(15)　アメンボ(5)　カエル(5)　ウグイス(14)　ニワトリ(12) |
| ●気象(46) | もや(21)　そよ風(25) |
| ○農業(97) | ビニールハウス(28)　畑(5)　水田(4)　かかし(43)　トラクター(7)　鍬(5)　水路(4) |
| ●日・光(10) | 太陽(7)　日差し(３) |
| □建築物(30) | 民家(30) |
| ○農作物(4) | わら(4) |
| △土地(16) | 岩(8)　土(8) |
| △道・路・坂(6) | 坂道(6)　農道(6) |
| ●森・林(16) | 林(16) |
| ●雲・空(17) | 雲(16)　空 |
| ●自然(9) | 自然(5)　自然の匂い(4) |
| △崖(4) | 崖(3)　丘 |
| △山(35) | 山(29)　山中(3)　背景の山(3) |
| 神社(15) | 神社(15) |
| □建築物以外の工作物(31) | 橋(25)　電柱(6) |
| 私的な存在物(9) | 丸太椅子(5)　ベンチ(4) |
| 乗り物(26) | 軽トラ(26) |
| ●水系(32) | 川(22)　河原(10) |
| 人(12) | 農家の方(12) |
| 音(41) | 鳥・虫の鳴き声(34)　水の音(7) |
| 形容詞(4) | 静かさ(2)　涼しさ(2) |
| その他(0) | |

表中記号の凡例　●：自然　△：地形　○：農業　□：工作物

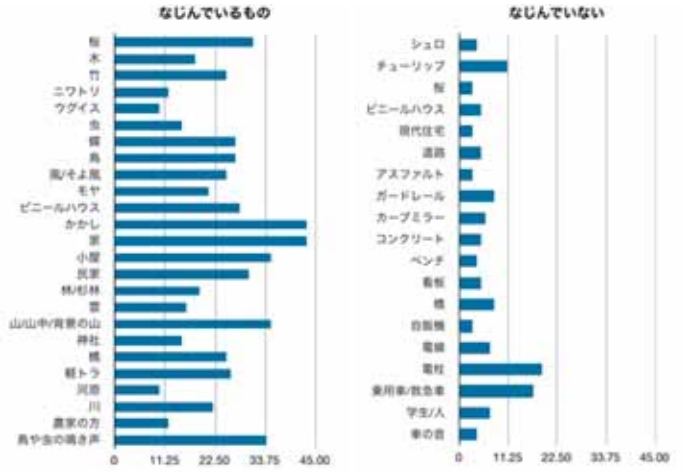


**図 5-15　学生を対象としたアンケート結果例**
**（なじんでいるものとなじんでいないもの頻出回数）**